

眞実は笑わない



眞実は笑わない

登場人物

香芝
しづか

薰
かおる

船長
ふなな

四十七歳
よじゅうしち

香芝
しづか

葉子
ようこ

料理長
りょうりな

四十七歳
よじゅうしち

香芝
しづか

マミ
まみ

二十五歳
にじゅうご

菜穂子
なほこ

二十三歳
にじゅうさん

香芝
しづか

蓮司
れんじ

十八歳
じゅうはち

三郷
さんごう

正太郎
しょうたろう

四十七歳
よじゅうしち

斑鳩
いかるが

義輝
よしつる

(赤髪)
操舵手
四十六歳
よじゅくさい

高田
たかだ

桃髭
ももひげ

作・中野
守 (中野劇團)

波の音。鳴の声。木の軋み。帆を打つ風。

木造帆船。甲板に無秩序に積み上げられた巨大な木箱。その上を帆の群が舞う。板張りの壁の中央には扉がついており、その奥に下階の船室へ通じる階段がある。上方のマストから垂直に張られたワイヤーと水平に張られたロープが格子状をなす。板張りの床に横たわる高校三年生、香芝蓮司。

蓮司 ん…。

蓮司、目を覚ます。上体を起こすと、頭痛が襲う。手には何故か封筒。

周りを見回す。見たことのない板壁。手摺の向こうに広がる海。

蓮司 何これ…。何処?

ビジネススーツ姿の女、桃髭が板壁の上に腰掛け、古い絵本を開いている。

桃髭 その昔

!?

——ヨーロッパの西の果て、ポルトガルという国に、ひとりの若い優秀な船乗り

がいました。

？

蓮司 桃髭

ポルトガルの船乗り達は、インド洋や東南アジア周辺の海を旅しては、当時ヨーロッパでは大変貴重だった香辛料を国に持つて帰つて来たり、途中立ち寄つた島の原住民を奴隸にして連れて帰つたりしました。若者の航海の腕は確かでしたが、あまり奴隸狩りには参加しなかつたので、幾ら頑張つても功績を認められませんでした。

誰？

蓮司 桃髭

自分の船を持つことも許されず、代わりに東南アジアから連れて帰つたエンリケという奴隸を与えられて召使いにしました。：若者ははずつと考えていました。アフリカを迂回してインドを越え、東洋へ行くのは遠過ぎる。でも、もし世界が丸いというのが本当なら、コロンブスの見つけた新大陸の更に向こうへ進めば、そういう反対回りでアジアに辿り着くはず、それは今のルートよりきっと近道に違ひない。

蓮司 その本…。

桃髭

若者は国の偉い人達に出航許可を貰いに行きました。でも、國中の誰も認めてはくれません。そこで若者は隣の国に行きスペインの国王にお願いに行き、認めてもらいました。成功すれば英雄。ヒデオと書いて英雄。若者は妻と子供を残して、危険な旅に出る決意をしました。

蓮司

「……何處？……わ！」

木の軋む音、蓮司、体勢を崩す。

心地よさそうに風を感じて目を閉じている桃髭。

蓮司

「……船？」

状況が掴めない蓮司。頭を搔きむしる。

桃髭
……ようやく目が覚めましたか。香芝蓮司さん。

蓮司
……誰？……あのこれって何ですか？

桃
髭

……。

船の軋み。体勢を崩す蓮司。

蓮司
……船？ 何で？

本を閉じる桃髭。

桃
髭

？

……だつて俺、家にいたのに。飯食つてて……（頭痛）！

蓮
司

香芝家食卓。木箱は食卓となり、父の薰と母の葉子、パンダの着ぐるみが突然それを囲んでいる。しかし時間が止まっているので、三人は卓袱台を囲んで静止画像の如く動かない。蓮司が母の目の前で手を振るも反応はなし。食卓の空席にスポットライト。桃髭に手振りで着席を促され、訝しがりつつも着席する蓮司。同時に、食卓は時間の概念を取り戻す。時計の振り子の音。
桃髭はいつの間にかいなくなっている。

薫 蓮司 そんなわけだ、蓮司。

……。

おまえに相談せずに決めたことは、悪いと思ってる。

薫 蓬司 意味がわからんないんだけど。

……無理もない。

薫 葉子 そりや、いきなりお父さんが脱サラするなんて言えればね。

蓮司 いや、そこじゃなくて。

薫 蓬司 僰だつて、自分が脱サラするなんて思ってもみなかつたよ。

蓮司 それはいいよ。脱サラはいいよ。

……。

薫 蓬司 どういう意味だよ。脱サラして海賊になるって。

間。

薫 答えてよ。

蓮司 ……母さんお茶。

詳しいことは海に出てから話すが――

薫
蓮司
（溜息）……。今話してよ！

（溜息）……。最初に脱サラを意識したのは――

「海賊」の方を聞いてんの！

蓮司、わからぬことがあれば聞きなさい。

だから聞いてんだよ！ 何なんだよ海賊って！

蓮司 船を使って他の船や沿岸の町を襲撃して――

蓮司 葉子 そういうこと聞いてるんじゃないよ！ 何で海賊になるなんて言い出したのかつ

て聞いてるんだよ！ エ、何なのこれ？ 何の冗談？

薫 冗談でこんなこと言うわけないだろ。

蓮司 葉子 つまんねえ冗談にしか聞こえないんだよ！

蓮司 葉子 蓮司が生まれてからお父さん、すっかり面白くなくなつたの。

俺のせいみたいに言つなよ。

葉子 今日ね、会社でお別れ会してくれたんだって。

薫 ……。

蓮司 ……俺はどうなるんだよ。

薫 (ほそ) どうって……。蛙の子は蛙っていうか。

蓮司 どういうこと!? 俺、やらねえよ!?

葉子 ナマズの孫じやないっていうか。

蓮司 あのやあ、頭に浮かんだこと全部口するのやめてくれない?

薫 決まつたことだから。

蓮司 勝手に決めんなよ!

薫 もう届も出したし。

蓮司 何? 届けって。

葉子 届も出したし。

蓮司 何処に!?

薫 頭金も払ったし。

蓮司 だから何、頭金って!? ええ? 会社辞めてどうするんだよ。俺、来年受験だよ?

薫 何処の世界に受験を心配する海賊がいるんだ。

蓮司 何処の世界に受験控えた息子を海賊にする親がいるんだよ! 父さんにはわかん

ないんだよ。今がどれだけ大事な時期か——
あれは、僕が高校三年の時だった。

薰
蓮司
話聞けよ！

夕日、放課後のチャイム。

薰
母さんお茶。

蓮司
何か始まるんじやないのかよ！

高田、凄い何の部活かわからない格好で登場。

高田
香芝、部活辞めるって本当か？

蓮司
何部？

高田
高田。俺が抜けても、みんなで証明してくれ。地球は丸かつたと。
蓮司
……丸いよ。

高田、素になつて退場。

蓮司 終わりかよ！ つたぐ——

薰 何考えてんだ。

蓮司 僕の台詞だよ！ 湧いてんじやねえの？

薰 お、親に向かつて湧いてるとは何だ！

葉子、タイミングよくラジカセの再生ボタンを押す。食卓を引っ繰り返す音が流れ、薰、それに合わせてゼスチュア。葉子、テープを巻き戻して停止。

蓮司 何それ。

間。

薰 大学つてお前何処に行くつもりだったんだ。
蓮司 早稲田。

薰何處の一

は？

蓮司座りなさい。

座つてるよ。

いからもつと座れ。

もつと?

大体蓮司、どうして大学なんか行こうと思うんだ。みんなが行くからか。

どうだつていいだろ。

自堕落で破廉恥なキヤンパスライフに憧れてるだけじゃないのか。

違うよー

そもそも早稲田には海賊学科があるのか。

ねえよ、んなもん！ 何勉強すんだよ、そんな学科。え？ 海賊原論Aとか――

母さんお茶。

蓮司 さらつとシカトすんなよ！ つーか、さっきから飲み過ぎなんだよ！ 何で俺の時だけ自分で決めさせてくれない訳？ 菜穂姉だってマミ姉だってやりたいよう

にやつてるじゃねえか。

マミだつて、真剣に考てるんだ。（パンダに）なあ。

パンダ
……。

薰
とにかく船に乗つていれば、そのうち海賊になるから。

葉子
蓮司
ならねえよ！

船に乗つて、宝島を探したいとか、そついう人としての感情が蓮司にはないのか。

蓮司
ねえよ！ ふざけんなよ！

葉子
蓮司
蓮司の血は何色？

ないもん探しても意味ないだろ！ 大体、船もないのに何が海賊だよ。

薰
蓮司
船は手配済みだ。父さんの古い友人が貸してくれることになった。蓮司、おまえひとりのわがままを聞くわけにはいかないんだ。

薰
蓮司
だつたらまず菜穂姉に言えよ。俺にとやかく言う前に菜穂姉に言うべきことがあるだろうが。全然家にも帰つて来ないで、やっぱそつな奴とばつか付き合つてるし。何で俺だけそんなわけわからぬことにつき合わなきやいけないんだよ。
おまえが長男だからだ。

蓮司 何だよそれ。

解つたから、きりのいいところでご飯済ませちゃつて下さいな。

母さんそんなサザエサニツクな言い方しないでいいだろ。

新しい言葉作んなよ。

葉子 味噌汁冷めるでしょ。

味噌汁つて母さん、我々は海賊なんだよ。

葉子 味噌汁はアサリなんですよ。

見たらわかるよアサリだよタニシじゃないよ。

葉子 タニシな訳ないでしょ。それともタニシの方がよかつたんですか。

外ニシの味噌汁なんて誰か飲みたいものか

葉子 外二シの何かわかるんでですか

薰

蓮言　どうでもいいよ夕ニシとかアサリとか!!

葉子　　蓮は、力学で何を勉強する。一モレナガ一モレ

蓮言
え？ 哲学とか

薰 哲学だと？ あんな非生産的な――

蓮司 海賊が言つな！

葉子 じゃ、ご飯片付けます。

薰 待ちなさいよ母さん。誰も食べないとは言つてないだろ。
葉子 なら、さつさと食べて下さいな。香芝君もほら。

蓮司 何で苗字で呼ぶんだよ。

パンダ、新聞を読んでいる。

蓮司 あのや……。

薰 母さん、今日のご飯は味噌汁だけですか。

葉子 だって、お金ないから。

薰 退職金があるだろ。

葉子 だから頭金で全部飛びましたよ。

蓮司 何やつてんの？

かのマリーアントワネットがその日食つのもままならない民衆に向かつて何て

言つたか知つてゐるか。パンがなければいいじゃない。

その人洋食が好きなのね。

フランスの人だよ。

なあ、まだ話……。

フランス人なの？ 日本語上手ね。

フランス語で言つたんだ。

貴方、フランス語できるんですか。

僕はできんよ。

で、どうしたんです？ そのマリーサンとワネットさんは。

二人になつちゃつたよ。論点ズルムケだよ。海賊の食事が味噌汁だけって、ちょつ
とシユールじゃないか？

家計に余裕がないんです。

家のローンもあるんじや……。

どうする蓮司。

こつちの台詞だよ。本当にどうすんの？ 仕事もしねえで。失業保険貰うとかし

葉子

蓮司

薫

蓮司

葉子

蓮司

て……。

薫 貰えないんだ。

蓮司 何で？

薫 仕事決まってるから。

蓮司 そ……。それなら……。

薫 暴レル関係。

蓮司、薫に突っかかる。パンダ、割つて入り、蓮司の肩を叩いて宥め、座らせる。

蓮司 何だよその遠い目は！

薫 いいか蓮司、譬え血の繋がった親子でも儂は船長だ。船長の言葉は絶対だ！ 儂

はマゼランになる！

なるってどういう意味？ マゼランって昔の人だろ！ それにマゼランって海賊

じゃないだろ！

葉子 じゃあ母さんはプリキュアになる。

蓮司 じゃあって何？ 言った者勝ち？ なんだよ二人して！ 大体、船長って何？

免許もないくせに。

煩いよ二代目。

継がねえよ！ 痛。（椅子に）釘出てんじやねえか。

ああ釘が出てたから直しておいた。

余計酷くなってるだろ。父さんが修理するといつもこうだよな。

薰

蓮司

薰

蓮司

間。

葉子 蓮司が船長の椅子を狙つてますよ。

薰 威勢がいいな。

蓮司 何言つてんの？

薰 母さん、このアサリ足が生えてるぞ！

蓮司、味噌汁を吹き出す。

葉子 あら嫌だ。^{うおまつ}魚松さんたらそそつかしい。

薫

そそっかしいで済ますのか？ アサリに足が生えてそそっかしいで済ますのか。

そういう次元じゃないだろ。

葉子

お金が足りなくてまけてもらったの。こんな所で足が出るなんて。

薫

巧いな。

蓮司

あのやあ。

薫

母さんこれ、絶対アサリじゃないよ。

葉子

嫌なら食べなくていいですよ。

薫

食べるよ。

蓮司

食べんのかよ！ ああもう！ おかしいよ。あんたら。

薫

あんたら？ 蓮司は親に向かってあんたらなんて言葉遣うのか！

薫、発作。

蓮司

ホントや、付き合ってる暇ねえから。海賊こつこか何か知らないけど、そういうのはや……。

蓮司、急に睡魔が襲い、その場に突つ伏す。パンダも何故かそれを確認してから気を失う。葉子、蓮司の頬を叩く。蓮司反応せず。

葉子

あなた。

海は死にますかーっ！

薰

豪快な波音。雨合羽に身を包む船乗りが次々登場。全員まるで幽霊船の軋む音のように呻っている。

中央奥よりパンダ登場。パンダ、食卓の上に立ち、颯爽と頭を脱ぐ。凛としたマミの顔が現れる。

マミ

(まくし立てて) 記憶の長嶋記録の王さん、パタパタママにサンデー。パパ、フーテン寅さん風船おじさん、借金地獄ノリノリ天国、酷いよ姉さんお黙りカツオ、夜霧よ今夜はブギーバック、昨日の味方は京野ことみ、明日は明日の風邪をひく、酒と泪と男と男、送り狼出迎え。パンダ、飲んでよぎるは悲しい記憶、何の騒ぎだ授業中だぞ、先生おしつこ止まりません、海は広いな大きいな、月は昇るし尾は東、過去も未来も陸に残し、いざ海原に漕ぎ出ん。短き生涯、何で綴ると尋ねられたら、迷わず私はこう答えよう。人で綴ると！ 人で綴ると！ 変な日記！

空間を引き裂くような落雷の音。全員一瞬にして、嵐の中を彷徨う船の乗組員。マミ、船首像の如く前方を見つめ続ける。

葉子 メーデーメーデー！ 救助を要請。現在位置は……。

薰 手の開いてる奴は船尾の修復に当たれ！ 命綱を忘れるな！

* おー！

高田 くそ。波が高い。転覆するぞ。

蓮司 前方に大渦発見！ 船橋ブリッジ！ 応答せよ！ 前方に大渦！

薰 回避イー！ 取り舵一杯！

斑鳩 聞こえない！

* 取り舵一杯！

蓮司 駄目だ！ 潮の方が速い！

葉子 メーデーメーデー！ 全然応答がないわ。

薰 いいから呼び続けろ！ 全員飛ばされてないか！

* おお！

潮の流れが変わった！

面舵一杯！

駄目だ回頭不能！

面舵一杯一杯！

（俺に）代われ！

突っ込むぞ！

高田

薫

斑鳩

薫

高田

薫

大きな衝撃。全員体勢を崩しワーキャー言っている。

蓮司

船橋！
ブリッジ 岸壁が迫ってる！

三郷

今度こそ本物の海峡だ。

薫

大陸の果てだ。地図は間違ってなかつた。全員！　ここが正念場だ。何としてで

も持ち应えよ！

*
おー！

船長、この海峡に名前をつけろ。俺達が見つけた証に。

よし！　じゃあ、チンコ！

薫

斑鳩

斑鳩 海峡ってつけろよ！

薫 海峡チンコ！

何で前に付けてんだよ！ 普通なんとか海峡って――

その前にチンコ指摘しろよ！

三郷 波が変わった！

薰 構わん！ このまま海峡を越えて大陸の向こうへ出る！

* 帆を張れ！

高田 帆を張れ！

* 帆を張れ！

眞実を確かめるんだ！

轟々たる波音の中、全員走り去り、蓮司ひとりが取り残される。

蓮司の背後に蓮司の姉菜穂子が立っている。菜穂子、キヤバ嬢風服装。

菜穂子 蓮司。

蓮司 菜穂姉？

菜穂子 ……状況解る？

蓮司 ……これって、船？

菜穂子 うん。

蓮司 ……みんな乗ってるの？

菜穂子 母さんとマミちゃんと、あと知らない人が何人か乗ってる。

蓮司 親父は？

菜穂子 わからない。見てない。

蓮司 家で晩飯食ってたらさ、親父がわけわかんないこと言い出してください。

菜穂子 ？

蓮司 海賊になるとか言い出して。

菜穂子 海賊？ 何それ。

蓮司 知らないよ。……それで会社辞めたって。

菜穂子 辞めたの？ 父さんが言つてたの？

蓮司 ふざけてんだろ。……菜穂姉は何でここに？

菜穂子 私も無理やり連れて来られた。

蓮司 親父に？

菜穂子 ううん。父さんとの知り合いだと思う。じゃあ蓮司は父さん達の側ってわけじゃないんだ。

蓮司 は？

菜穂子 だつてそんな格好してるから。

蓮司は髑髏をあしらったシャツを着ている。

蓮司 違つよ。たまたま（そういう服なだけ）だよ。姉ちゃんこそ何だよその格好。

菜穂子はキャバ嬢。

菜穂子 仕事終わって店出たところで無理やり車に押し込まれたから。

蓮司 店って、おっさんと酒飲むよくな？

菜穂子 そんな感じ。

蓮司 菜穂姉、今、何処にいるの？

菜穂子 店の近くにマンション借りてる。

蓮司 そつか。

菜穂子 ……マミちゃん元気してた?

蓮司 菜穂姉出てつてからあんまり。

菜穂子 そつか。……蓮司も災難だね。受験で忙しい時期なんですよ。

蓮司 親父、珍しく早い時間に家にいると思ったら。冗談じやねえよ。いい加減にしてくれよな。母さん、さつきから何やってんだよ。

葉子、さつきからモップがけをしていた。

葉子 ……あ、蓮ちゃん。

蓮司 遅いよ。

葉子 これどういうこと?

蓮司 こっちの台詞だよ! 何、味噌汁に睡眠薬なんか混せてんだよ!

俺本当にこん

なことしてると場合じゃないんだけど。

葉子 ……。

蓮司 ちょっと聞いてんの? う……。

蓮司

……うつぶ。

蓮司、慌ててデッキへ走り、手すりに掴まって、海に向かって嘔吐。たまたま通りがかった斑鳩、蓮司の背中をさする。

斑鳩

ようし。ようし。ようし海賊だ。ようし。ようし海賊だ。

斑鳩を振り払う蓮司。

蓮司

誰だよ！

斑鳩

君達のお父さんの高校時代の同級生の斑鳩義輝だ。赤髭って呼んでくれ。

髭は生えていない。

蓮司

は？

白衣を着た女装の船医、三郷登場。

三郷 起きた？

葉子 うん。

三郷、蓮司に薬を渡す。

蓮司 何これ？

三郷 酔い止め。

蓮司 誰？

葉子 三郷さん。

三郷 君達のお父さんの高校の同級生。

蓮司にひつつきすぎな三郷。

菜穂子 あんたらだよな。私を拉致ったの。

斑鳩 ……だつたら？

菜穂子 船を戻して。

三郷、手で天狗。

菜穂子 何！

菜穂子 ……何なんだよ。あんたら。

斑鳩 取りあえず船長に代わって状況を説明しておく。この船が現在位置を見失つて半日になるけど……。

菜穂子 ちよ、遭難してんの？

斑鳩 縁起でもないこと言つな。周りにとつてちょっと、行方不明になつてるだけだ。

菜穂子 だからそれを遭難つて言つんでしょ。

斑鳩 だつてわかんないんだよ！

蓮司 何でわかんないんだよ。何で何処かわかんないのにずっと走つてんだよ！

斑鳩 海だよ！

蓮司 だから海の何処だよ！ 何処に進んでんだよ！

斑鳩 こっちが聞きたいよ。

菜穂子 無責任なこと言わないでよ！

斑鳩 取りあえず前には進んでる。

蓮司 わからぬなら進まないで、戻れよ！ せめて止まれよ！ バカじやねえの？

斑鳩 遭難してんだろ、だつたらやるべきことがあるだろ！

蓮司 そつだ。まず最初にホントに遭難してるかどうか確認することから。

斑鳩 だからしてんでしょ！

蓮司 クルー全員役割を果たさないと動かのが帆船なんだ。

斑鳩 クルージャねえよ。

蓮司 乗ってんだろ！

斑鳩 乗せたんだろ！ 拉致って無理矢理乗せたんだろ！ 大体、これの何処が海賊な

蓮司 んだよ！

菜穂子 あんたが一番海賊っぽいんだけど。

水に濡れたらしく、ズボンの裾をたくし上げている蓮司。頭に巻いたバンダナの後頭部に髑髏マーク
(できればここで初めて見える)。

蓮司

煩いな！ いいから、遭難したなら早く救助信号出せよ！

斑鳩

仮にも海賊がそんな恥ずかしい信号出せるか！

蓮司

そんなこと言ってる場合じゃないだろ。

斑鳩

そもそもそんな信号ないし。

蓮司

なくてこんな海出ちゃ駄目だろ？

斑鳩

だって、こんなの作ったことないもん！ そもそもこいつを海に浮かべるつもり

斑鳩

なんてなかつたんだよ。

蓮司

海に浮かべない船って何だよ。

斑鳩

観賞用だよ。

蓮司

観賞用の船って何！

斑鳩

ボトルシップだよ！

蓮司

こんなでかいボトルシップがあるわけないだろ！ 仮に百歩譲って――

斑三

何、百歩譲ってんだよ！

蓮司

はあ？

蓮司 (無視して) ホントにボトルシップだつたとしてどうやって船をボトルの中から出したんだよ。

斑鳩 頑張ってに決まってるだろ！

蓮司 だからどう頑張って！

斑鳩 割ったんだよ！

三郷 派手な進水式だった。

蓮司 さつきから聞いてたら、何なんですか、え？ これの何処が海賊ですか。大体、海賊になつて何がしたいんですか。

三郷 その質問、そつくりそのまま返すわ。

蓮司 意味わからねえよ！ 僕は全くなつないんだよ。ちょっとお！

蓮司 (背後にべつたりひついている三郷を振りほどく。斑鳩、手すりから喫水線 (海面が船のどの辺の高さまできてるか) を調べる。

斑鳩 うわ、喫水線上がつてる。

菜穂子 同窓会やるならあんた達だけで勝手にやってよ。何で私らまで。何の真似か知ら

斑鳩

ないけどさあ、こっちは店に行かなきやいけないの。早く戻つてくれない？
そう言つなよ。同じ水商売だろ。

菜穂子も自分の衣服のポケットを調べるが、携帯電話はない。

菜穂子 父さんは何処？ 父さんと話がしたい。

*。

菜穂子 何処だつて言ってんの！

菜穂子、桃毬、去る。

パンダの着ぐるみを着たマミ登場。空気が止まる。その辺を徘徊。振り返つて、みんなの方を見る
パンダ。

*。

三郷 あれ、マミちゃん？

葉子 うん。

マミ ……。

もしかして苦しいんじゃない？

え？

三郷 斑鳩

三郷

斑鳩

ほら。

斑鳩、パンダの頭を脱がせる。

マミ 僕は。ベジテのアスベル……。助けてくれてありがとう。

……え、あ、うん。ええ？

三郷 斑鳩

三郷

斑鳩

(ヒソ) ちょっと。

マミ 驚くのは当たり前さ。僕らは腐海の底にいるんだよ。

斑鳩 うん。そうだね。

マミ 驚くのは当たり前さ。僕らは腐海の底にいるんだよ。

マミ ……。

マミ ちゃん。ここは危ないから部屋に戻ろうか。

マミ ちゃん。ここは危ないから部屋に戻ろうか。

どつかれている。

斑鳩

……あの？

葉子

今はアスベルって呼んでやつて下さい。

斑鳩

はあ。……アスベル君？

マミ

すまなかつた。妹を看取つてくれた人を僕は殺してしまつどころだつた。

斑鳩

うん。大丈夫。……アスベル君。部屋に戻ろうか。嵐が来るから。

マミ

だとしたら僕らは滅ひるしかなやそんだ。

斑鳩

うん。そんなことないよ。

マミ

……。

(ヒソ) どうすんの？

*

(ヒソ) そんなこと言つたつて。

三郷

船長呼んで来る。

*

マミ 動くな。その子を行かせてやれ。

*

……。

マミ

(アシタカで) その子は人間だぞ!

(ヒソ) 変わったわよ。

(ヒソ) 出展が変わった。

(ヒソ) どうしよ?

マミ、去る。

*

*

*

高田
斑鳩

何なんだ。

マミちゃんだよ。

高田
斑鳩

わかってるよ。

蓮司
高田

これの何処が海賊なんだよ?

海賊になつて何がしたいんだよ!

桃髭登場。

蓮司
桃髭

宝島を探すのです。

? あんた、さつきの。

桃
髭

どうぞ、社長。場は適度に温まつております。

高田、重厚なインポートに乗せて登場。白い髑髏のプリントが入った黒のベスト、不自然にずれた頭
髪。周囲の人間は気圧されている。

高田　はじめまして。

蓮司　？

高田　まずは無事に出航できましたことを心よりお喜び申し上げます。「宝島を探す」これが我々の依頼主、香芝様の掲げたミッションでござります。申し遅れましたが、私は香芝様の目的達成のお手伝いをするためにやつて参りましたコンサルタントの高田と申します。よろしくお願ひします。

蓮司　コンサルタント？ 海賊の？

高田　それと秘書の桃髭です。

蓮司　桃？ 髭？ え？

高田　というわけでしばらく皆様との船で一緒にさせていただきます。が、基本的に我々は何もいたしません。あなた方でこの船を動かしていただきます。我々が

するには、あなたがたの監視、それくらいです。さて、事前にある程度の説明は受けているかと思いますが、皆様には必ず守っていただきなければならぬ決まりがございます。

桃
髻

(一枚の紙を出し) 船長から皆様の役割を決めた表を預かっております。舵取りは斑鳩様。船医は三郷様。香芝葉子様は厨房長。事務長は私桃髭が。残りの方は甲板手です。全員朝の五時に起床。宿直は交代制で交代時刻の五分前には必ず所定の位置に着くこと。その他詳細にわたって書いてありますので後で必ずご確認下さい。それと、皆様の携帯電話等連絡手段となるものは全て没収させていただきます。下船の際までこちらで預からせていただきます。

高田 一人でも足引つ張る人間がいたら、それは乗組員全員の命取りになりかねませんからね。それにしても、いい船ですね、これ。

斑鳩

特に船長室のあの羅針盤なんて。あれも手作りですか?

十六世紀のものを忠実に再現しました。

高田 精巧な作りでした。今となってはあれが模型なのが残念で仕方がないですね。

蓮司

残念すぎるよ！ それで遭難してんじゃねえか。

葉子

あの羅針盤を見てる人もリアルに作ってあって。

蓮司

要らないだろ！ 捨てろよ！

菜穂子

こっちの羅針盤（脳）も模型じやねえの？

高田

……。

菜穂子

何？

高田

そして一番重要なことです。今後船長の命令には絶対服従でお願いいたします。

船の上では船長の言葉は絶対です。当然我々も従います。たとえご子息ご令嬢であろうと、これからは船長と船員。船長に逆らう人間は容赦なく海へ放り投げますので、覚悟しておいて下さい。ま、難しく考えることはありません。船長の指示に従つて、皆様協力して船を動かせばいいだけのことです。では解散。

高田、桃姫、去る。

夜。動きやすい格好になつた菜穂子、イライラしながら歩いて来る。カウンターに酒を見つけ、腐つてないか確認して酒を呷る。三郷登場。

三郷 何も見えない夜の海。光のない世界。波の音と、揺れと、風に含まれる潮と湿気と、昼間見た映像の記憶でしか確認できない海。空との境界もわからない、ただ目の前の全てが闇。そんな闇が一望できる、お風呂が湧いたよ。

菜穂子 『お風呂が湧いた』だけでいいです。……こととして、何の意味があんの？
三郷 意味もなく、こんなことしないわよ。

菜穂子 だつたら目的を聞かせて。

三郷 この海の何処かに菜穂子ちゃんの曾おじいちゃんの隠した宝が眠ってる…。

三郷、バントのサイン。

菜穂子 ？

三郷 香芝のお母さんのお父さんが軍に没収される前に海に棄てたって記録が出てきて
…。

三郷、バントのサイン。

菜穂子 そうなの？

三郷 相当な価値があるらしいわよ。

三郷、バントのサイン。

菜穂子 癒？

三郷 え？

菜穂子 その手。

三郷 ああ、緊張すると出ちゃうの。

三郷、バントのサイン。

三郷 ……家に全然帰ってなかつたんだつて？

菜穂子 何なの、あんたら。どうして父さんに協力する訳? 父さんの何?

三郷 同じ高校だったの。みんな。

菜穂子 ……。

三郷 ずっと会ってなかつた。昔の私を知つてゐる人とは会わないようにしてた。それが
ねえ……。

菜穂子 ?

三郷 ……私と君のお父さんを引き合わせたのはね、菜穂子ちゃん、君なのよ。

菜穂子 私が?

三郷、菜穂子に名刺渡す。

菜穂子 聖^{セント}ボキール医大附属病院……。

三郷 菜穂子ちゃん、うちの病院來たことがあるよね。

菜穂子 え?

三郷、席につく。

三郷 見ないうちに、香芝、オヤジになつててびっくりした。

三郷、硬直。

菜穂子 え？ 何？

三郷 ……。

菜穂子 また？

ウイイイ……ンガシン！（昇降機の音）

三郷の回想。酒場。バークウンターの中にバー・テンに扮し、シェイカーを振るバー・テンダー（斑鳩）がフリーズした状態でせり上がって来る。客1（高田）、客2（蓮司）が硬直した状態でいつの間にかいる。菜穂子、三郷の向かいの席に座る。時は動かず。何度も腰を浮かして座り直すが、時は動かず。最初の回想の時に座った木箱が明るくなる。菜穂子、木箱に乗つて着席。瞬間、時間どジャズが流れる。菜穂子、客役を兼ねて傍観。

薫登場。三郷の回想ゆえ、現実よりもオヤジぶりが誇張されている。

三郷 香芝。

薫 おう。

菜穂子 そこまでオヤジじゃねえよ！

薫 ここか、沢由美子が集まる店って。

菜穂子 集まるって何？

薫 悪いな、遅れて。

薫、三郷の向かいの席につき、ハゲヅラを取り、ちょび髭を取る。

三郷 ううん、私も今来たどー。

三郷、バントのサイン。

薫 嘘つけ。待ったんだろ。いまだに治ってないんだな。嘘つく時にバントのサイン
出す癖。

菜穂子 さっきの全部嘘かよ！ 「てへ」じゃねえよ！

三郷 着替える時間もなかつたの？ 別の日でもよかつたのに。

薫

三郷

今日できることは明日に回さない主義だから。

なかつたよね、そんな主義。

しかし、おまえから来た年賀状に「せいが変わった」って書いてたのには笑つたよ。

「そっちの性かよ」って？

ホント変わつたな。いつから会つてないんだっけ？

最後に会つたの、部活の同窓会だつたかな？ ほら、斑鳩が酔つた勢いで背が伸びた……。

薫
あつたなあ。

三郷
香芝のとこの真ん中の子、何つて言つたっけ？ イワシちゃん？

薫
菜穂子？

三郷
そうだ、菜穂子なんだ。うちの病院に来てた。

薫
菜穂が？

聞いててイライラしている菜穂子。

三郷
菜穂ちゃんは私に気づかなかつたみたいだけね。ま、覚えてないのも無理はな

いか。最後に見た時、あの子ランドセルを背負つてた。

ああ。

薰

三郷
五、六個。

ジヤンケンの弱い子だった。しかし、菜穂子が何でお前の病院に？

三郷
うん、その話なんだけど。（バー・テンダーに）マスター、お任せで何か作ってくれる？

バー・テンダー
畏まりました。

薰
俺も同じ奴を。

バー・テンダー
畏まりました。

三郷
……菜穂子ちゃんって、今、大学生？

薰
いや、高校も中退して……。

三郷
そうなの？

薰
殆ど家にも帰つて来てない。

菜穂子
……。

薰
ホント、何考えてるのか解らん。小さい頃はホント可愛かったのに。天狗が大好きだったんだ。機嫌悪い時でもこう（手で天狗の鼻）やつたら途端に機嫌良くなつ

て。

菜穂子 (それか！ さっきの)

「おつきくなつたら天狗になる」なんて言つてた。

薫 三郷 フフ……。

薫 ……ある意味成就したけどな。

菜穂子 ……。

薫 三郷 菜穂子、何処か悪いのか？

ううん。

薫 三郷 三郷って何科だつたっけ？

薫 三郷 循環器科よ。けど、来たのはうちの科じゃなくて。……産婦人科。

薫 三郷 ?

薫 三郷 ……中絶したって。

薫 三郷 菜穂子 ……。

薫 三郷 え？

薫 三郷 ……。

薫

三郷

菜穂子が？

ホントは守秘義務があるから教えちゃ駄目んだけど。

……嘘だろ？

(首を横に振る) だったらサインが出てる。

薫

三郷

……。

薫、髪を搔き筆る。菜穂子と蓮司と同じ仕草で。

父親は誰か解る？

俺だ！

じやなくて。

いや解らん！

薫

三郷

今回が初めてじゃないみたい。香芝に言つべきか迷つたんだけど。

凄い形相の薫。

客1

客2

何で、財布に二十円しかねえんだよ。
やつべ。

客1

いいから早くおろして来いよ。

客2

ええ?

客1

いいから早くおろして来いよ。

客2

ええ?

客1

いいから早くおろして来いよ。

客2

ええ?

更に形相が酷くなる薫。

三郷

香芝? 香芝? 香芝? 香芝? 香芝?

薫

え? ああ。

三郷

場所変えよっか。

薫と、三郷、席を入れ替わる。

薫

何をやつてるんだ。……あいつ、ひとりで病院に？

三郷

多分。丁度受付で用事してる時に名前呼ばれてたから気づいて。香芝って珍しい

苗字だから。

薫

……。

三郷

夜の仕事しててみみたいな格好してた。ちょうどあんな……。

三郷、菜穂子を見る。

薫

うちの菜穂子をあんな虫みたいな子と一緒にするな。

菜穂子

……一緒なんだけど。

バー・テンダー、丁寧かつ手際よくでショートカクテルを2つ完成させ、薫と三郷に出す。

バー・テン 鶏ガラ醤油の中華スープです。

三郷・薫

……。

本当に中華スープ。訝しそうに匂いや味を確かめる二人。

三郷、うどんをまさぼる。

三郷
放つておいたら繰り返すよ?

薰
?

三郷
あの子。……菜穂子ちゃんがどんな気持ちで中絶したか、私には、わからない。わ

かり得ない。

間。

三郷
菜穂子ちゃんと話してみたら?

薰
何て言つんだよ。……そ、う、じ、や、な、く、て、も、ど、う、や、つ、て、話、し、掛、け、た、ら、い、い、か、わ、か、ら、な

い、の、に、……。自、分、の、子、な、の、に、な。

三郷
……。

……一緒にやねえか。

……何が？

薰 三郷 薰 三郷
……三郷、俺の親爺見たことあるよな？

え？

仕事は長続きしないでブラブラして、お袋に働かせて、おまけに酒飲んでは暴れて。
……お袋も俺ら兄弟もズタズタだった。あんな親にだけはなりたくない、それで、
家族のためにがむしやらにやつてきたのに。おんなじようく家庭崩壊させちやつ
てさ。

三郷 薫 三郷 薫 三郷

今も許せないの？ 親爺さんのこと。

……。

薰 三郷 薫 三郷 薫 三郷

許す……。あいつのせいでお袋の人生は滅茶苦茶になつたんだ。
……（首を横に振つて）一昨年死んだ……。

……。

三郷 薫 三郷 薫 三郷 薫 三郷

最期に私のこと呼んでたつて。けど、オペがあつて抜けられなくて……。

薫

……。

三郷

つて言い訳してる。自分に。……駆けつけようと思えば駆けつけられたもん。

マミ、登場。回想だとわからずに出てきた感じで。回想の邪魔をしないよう、菜穂子にその辺に座らされる。

三郷

香芝は、まだ取り戻せるじゃん……。

薫

……。

三郷

香芝や、え本気なら。

薫

本気。……どうすれば取り戻せる?

三郷

家族と向き合つ時間を作りなさい……。

薫

本気出せば間に合つか?

薫

ふう。だつたら奪えばいいか。

何を?

家族以外ものを。

三郷 だからどうやって？

笑う三郷。

薫 斑鳩の連絡先わかるか？

三郷 ホームページがあるからメールで連絡はつくけど。
うん。

回想終了。

三郷 という訳なの。

菜穂子 長いよ！

三郷 あとは菜穂子ちゃんの知ってる通り。
菜穂子 割愛できるどこいっぽいあつたよね。

三郷 誰か相談——

バーテン お会計、三千円になります。

バー・テンダー（斑鳩）だけ回憶が終わっていない。

三郷
え？

バー・テン
三千円になります。

三郷 財布から札を出して支払う。

バー・テン 四千円からお預かりします。（レジ）千円のお返しです。ありがとうございました。

バー・テンダー、漸く消える。

三郷 誰か相談できる人いなかつたの？ お母さんとか……。

菜穂子 何が？

三郷 身近な女性の先輩なんだし。

菜穂子 毎日、隠れて酒飲んでばっかの人間に聞いてもらいたくもないし。関係ないじゃん。

話したところでどうせ、臭い息吐きながら説教たれるのがオチ。誰か他人に話すかも知れないし。

三郷
まさか。

マリ、ズボンの中を確かめている。

菜穂子 何探してるの？

マミ ちんこ。

菜穂子 最初からないだろ、そんなもん。

マミ 最初からない……。

菜穂子 ……母さん、依存症の会に通ってる。

三郷 聞いた。『君は悪くない悪いのはお酒なんだの会』でしょ。

マミ 菜穂ちゃんのを貸して。

菜穂子 ないって！ あつても貸せない！

マミ あつても貸せない……。

菜穂子 ……同じような人達相手に、家庭や職場の悩みを告白し合うの包み隠さず。旦那

が単身赴任で孤独に勝てないとか、息子の嫁がどうしても受け容れられないとか、
プロ野球引退して日雇いで働いてるけど、野球への未練を断ち切れないで息子に
スパルタを強いてしまうとか。酒に頼る原因になってる環境から解決するのが方
針だとか何とか言って。

マミ その辺売ってないかな。

菜穂子 自分の不幸を聞いてほしい人と、他人の不幸を同情したがる人が集まつてんの。
自分の娘がさ、子供堕ろしたなんて格好のネタじやん。自分のことで一杯一杯な
んだよあの人。小さい頃からずっと見てきた。

マミ 買い置きしどきやよかつたな。

菜穂子 ……ひとりで勝手にイライラしては、マミちゃん叱って。ううん叱ってんじゃない。
当たつてんの。溜まつたストレスをただぶつけてんの。

マミ 隠してなあい？

菜穂子 だから最初からなあいって！

マミ だから最初からなあいって……。

菜穂子 ……ちっちゃいマミちゃん相手に糞味噌になじつて。だからマミ姉はこんな風に

なつた！

菜穂子、マミを抱きながら、三郷を睨む。

マミ ちんこ、どつか行つちゃつた……。

三郷 一緒に。

菜穂子 私、物陰で一部始終見てた。怖かった。怒られないようにしてた。マミ姉が壊れて、それであの人に酒に走つて。それからには、掌返したみたく大人しくなつたけど。ホントあの人見てて思つた。大人つてしまーもないなあつて。

三郷 ……菜穂ちゃんは知つてたの？

菜穂子 ?

三郷 その……、マミちゃんが連れ子だつたこと。

菜穂子 結婚式の写真にマミ姉が写つてたから……。

三郷 そつか。

菜穂子 ……親父が悪いんだよ。いつも仕事仕事仕事仕事仕事仕事……。ずっとマミ姉が

虐待受けてたことに気づかないでさ。それが今更……。今更何がしたいの、海賊つ

て。中途半端にイカれちゃって。だったら死ぬまで働いてくれた方がよっぽど立派だつづーの。

三郷 父親を何だと思ってるの？

菜穂子 ……。

三郷 ……。

菜穂子 私のこと軽蔑してんでしょ？

三郷 してない。

三郷、サイン。

菜穂子 そんな嘘が下手でよく女になろうなんて思つたね。

三郷 ……。

菜穂子 とにかくとつととあの家出たかった。

マリ、海の向こうを凝視している。

マミ 菜穂ちゃん、ほら、戻ってきた……。

菜穂子 え？ 何？ 何が？

マミ さつき食った物が。才工工工（嘔吐）。

菜穂子 わあ！ ちょっと待って。おっさん、バケツ。

三郷 おっさん？ え？ おっさん？

菜穂子 何でそんなに干渉すんの？

三郷 ……私も親に虐待された口だから。

三郷、バントのサインをして去る。

菜穂子 サイン出してんじゃねえよ！

葉子、登場。

蓮司 菜穂姉……。

マミ おええ。

菜穂子 ほら、こっち！

菜穂子、マミを引っ張つて去る。

葉子 ……。

菜穂子が飲んだ後の酒を気にする葉子。

桃髭、置いてある絵本を手にして朗読しはじめる。

桃髭

……ポルトガルを離れ、一路南米へと辿り着いた若者率いる五艘の船は、そこから更に南へと向かいます。そこはまだ正確な地図や見えない場所。しかし若者は信じていました。どんな大陸も必ず終点は三角になつてて終わりがあると。船は進み、ある日若者の想像している場所に辿り着きました。一同は激しく喜びました。が、先へ進むと、それがただの大きな川だと解って、がっかりさせられました。船員達の中から、不満も出始めました。

いつの間にか葉子、三郷、斑鳩の四人がテーブルを囲んでトランプをしている。

* おいしい！（トランプに対し）

まだあつたんだね。

え？

それ（絵本）。香芝が持つてたのか。

（札）繰つた？

斑鳩 繰つたよ。

高校の時もよくやつてたね、一こうやつて。

三郷 薫 ああ。

首に双眼鏡をぶら下げた蓮司が現れる。マミもついて来ている。

斑鳩 どうだつた？ 見えたか？ 日付変更線。

蓮司 ねえよ！ んなもん。

斑鳩 マミちゃん、眠くないのか。

マミ お腹空いた。

蓮司 さつき食べただろ。

マミ さつき食べた。

香芝 しゃ！（札を並べる）

斑鳩 うああ。

斑鳩、席を立つて葉子が代わりにテーブルを囲む。高田、紙に勝敗を記録している。斑鳩、デッキへ。

マミちゃんってずっとこんな感じ？

蓮司 こんなって？

斑鳩 淡々としてるって言つか……。

蓮司 そうかな。……あ、でも菜穂姉がずっといるから、嬉しいみたいだけど。

斑鳩 そうなんだ。（わからない）……見てたら菜穂子ちゃんの方がお姉ちゃんみたいだよな。

蓮司 そんな風に思ったことないけど。

斑鳩 ……変わったな。

蓮司 何が？

斑鳩

出航した頃は、何もかも気に入らないみたいにギヤーギヤー怒鳴つて、文句言つてたけど。逆らつたら飯抜きつてゲームに意外と乗つかつて来たつていうか。

蓮司

乗つかるも何も、それ従つしかないから。何處にも逃げらんない船の上でさ、食いもん押さえて言わないので。船降りたら一度と親爺と一緒に行動しないから。

斑鳩 天を見上げる。

斑鳩

そんなこと言って、本当はちょっと楽しいんだろ。

蓮司

何処が。

斑鳩

凄いほら見て見て。ほらほら。

斑鳩に促されるまま天を見上げる蓮司。

斑鳩

ここまで首が曲がる。

蓮司

……。

斑鳩

海はいろんなことを教えてくれるなあ。

蓮司

マミ

……。

蓮司君、海って何？

目の前に広がってるだろ。マミ姉、海は平気なんだな。プールは見るのも嫌がるのに。

……なあ、波がだんだん高くなってるんだけど。

斑鳩 早稲田受けるつもりだったんだって？

蓮司 え？ ああ。

斑鳩 どうして早稲田？

蓮司 行きたい会社の社長が早稲田の哲学コースからばかり採つてて。

斑鳩 行きたいトコ？

蓮司 出版社。……別に興味ないでしょ。

問。

蓮司

斑鳩 ああ、結婚したい。

……。

間。

……俺ら同じ高校で演劇やつてたんだ。

斑鳩 蓮司 今何？

斑鳩 香芝、芝居で食いたいってずっと言つてた。

蓮司 非生産的じゃねえか。……あの人、ホントに男だったんですか？

斑鳩 三郷？ ホント変わったよ。全然あんな喋り方じやなかつたし。でよ、そんな中で香芝がさ、芝居しないかつて誘つてきてさ。

蓮司 ふうん。

斑鳩 もう、昔のことだからよく覚えてないけど、香芝、マゼランやつてたなあ。

蓮司 マゼラン？

斑鳩、薰、硬直。時計の音。時間が止まる。

蓮司 え？ 何これ？ ちょ、航海長？ ……ええ？

蓮司が所定の席に着くと時間が流れる。斑鳩の回想。高校の教室。

薫

（捲し立てて）だから要するにいわゆるだな。何だかんだ言つて海つて例えばさ、やつぱり一こういうもつとさ凄い俺とかお前とか。

斑鳩

（対抗して）何がどうつて訳じやなく、ちょっと全くその辺がだからあれなんだろうな、凄い俺とかお前とか。

蓮司

覚えてないなら回想に入らないで下さいよ！

薫

薫と斑鳩、相槌。斑鳩と薫、急に芝居がかつた低い声で喋り始める。

蓮司

確かに地図は間違っていた。

？

だが、私の意志は変わらん。……副船長、まだ、この先なんだ。果てのないと思われていたアフリカにだつて南の果て喜望峰きぼうほうがあつた。先へ進もう。

間。

?

蓮司
斑鳩
台詞。

え？

蓮司
斑鳩

台詞入れて来いって言つただろ。解つてんのか。大会本番まであと何日か。
え？

演劇部の稽古中である。薫がマゼラン役、斑鳩が演出家。蓮司はどうやら薫達の後輩で、相手役らしい。マミもいつの間にか登場。斑鳩の横に座っている。

薫

斑鳩、時間が惜しい。

斑鳩

(蓮司に) いいから本持つて。

高田、蓮司に台本（勝敗表）を渡す。

斑鳩
蓮司

「船長、あんたは港を出る時」……。

船長、あんたは港を出る時俺達に何て言つたか覚えてるか。

薰
斑鳩
行くぜ。

薰
斑鳩
「何か言つたか？」

薰
斑鳩
何か言つたか？

蓮司
薰
南には天国みたいな島がある、そう言つた。だが実際はどうだ、南に来れば来るほど気温が下がつてゐる。

蓮司
薰
冒險に予定外はつきものだ。

港を出て五ヶ月。どれだけ進んだ？ 船員達は皆、長旅で疲弊しきつてゐる。海峡
と思っていたのが大きな川だと解つたあの時に、国に戻る決断をするべきだつた。
だが、あんたはそれを怠つた。いいか船長。全ての命運はあんたひとりが握つてゐる。
今はまだ少ない犠牲で済んでゐるんだ。

斑鳩
蓮司
「済みきつてゐるんだ。」

済みきつてゐるんだ。己の名声と、二五〇人の命。どちらが大切か、よく考へるんだ。
あんたも國に結婚して間もない奥さんを待たせてるんだ。解るはずだ。

あるんだよ。この先に必ずあるんだよ。陸の切れ目が。この大地は丸い。永遠に
続く大陸なんてものはありはしない。

薰
斑鳩
蓮司

蓮司 引く勇氣もある。

薰 ここまで来て、何の航路も見つけられずにおめおめと帰れるか。
マミ うにうに。

薰 うにうにと帰れるか。俺は認められたいんだよ。
蓮司 危険なんだよ。

薰 脅すな、副船長。みんな命は捨てる覚悟で港を出たはずだ。結果を生むためには、
相応のリスクが必要なんだよ。必ず真実は最後に笑ってくれる。この先に海峡があることは確実なことなんだ。確実に近づいてるんだ。

薰、ないマントを翻して去る。マミも後に続く。

蓮司 ……破滅にな。

学生時代の三郷、葉子登場。斑鳩は食卓の回想の、何部かわからない格好で。時代は一九七五年。「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」な年。

三郷 桜井さん。

葉子 香芝君、今、停学になつたら卒業できないんだよ。どうして香芝君ひとりに被らせるの？

斑鳩 俺は卒業できないと困る。

三郷 僕も……。そんなことしたら、親が許さない。

葉子 いつも香芝君に助けてもらつておきながら。こんな時に黙つて見過ごすんだね。

……。

斑鳩 誘つたのあいつだ。この学校で自分ひとり落ちてくならいぞ知らず、他の生徒も巻き添えにして、勝手に演劇グループを作つた。香芝はいいよ。どうせその辺の大学に行くんだろ。俺らは今、目をつけられるわけにいかないんだ。今じゃなくたつてできるだろ。

薰、戻つて来る。

斑鳩、俺がいなくても、みんなで証明してくれ。地球は丸かつたど。

薫、去る。

桃髭、置いてある絵本を手に取る。

桃髭

何日が過ぎたでしょう。ついにマゼランは思っていた通りの場所、大陸の果てに辿り着きました。海峡の荒れ狂う波の中を進むのは簡単なことではなく、何人の犠牲者が出ました。やがて海峡を越えたマゼラン達を待っていたのは果てしなく続く穏やかな海でした。最初はみんな大はしゃぎでしたが、行けど行けど、見えるのは海と空だけです。九〇日が過ぎました。食糧は尽き、病人が増え、船乗り達は次々と死んでいきました。

桃髭

海峡の向こうには果てしない海が広がっていました。最初はみんな大はしゃぎでしたが、行けど行けど、見えるのは海と空だけです。九〇日が過ぎました。食糧は尽き、病人が増え、船乗り達は次々と死んでいきました。……船は、何日も何十日も、太平洋を彷徨さまよい続けました。突然、誰かが叫びました。陸だ。若者の目には、それまで幾度となく騙された蜃気楼ではない、本物の島が映っていました。……その島で若者を待つてたのは、大きな感動でした。東南アジア出身の召使いエン

リケの言葉が、この島の人を通じたのです。若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次はいよいよ自分の番だ。

嵐。全員、慌てた様子で積み荷を移動させたり、帆を上げたり、懐中電灯を持って甲板を徘徊したりしている。

菜穂子 マミちゃん！ 何處お？

蓮司 いた？

菜穂子 いないよ？

蓮司 ええ？

菜穂子 海に落ちたとかじゃないよね。

蓮司 縁起でもないこと言うなよ。……まさかそれは……。

菜穂子 この暗さじゃ探しようがないよ。

マミ高田に連れて来られる。危機感なく徘徊している。

高田

救命ボートの中で寝ていました。

全員胸を撫で下ろす。

葉子

マミ。外は危ないから、中に入りなさい。

葉子がマミの手を取ろうとすると、マミ、ヒステリックに拒絶し、逃げ去る。

菜穂子

マミ姉！

菜穂子、マミを追いかけて去る。

葉子

マミ……。

三郷

……。

葉子

私のせいなの。

三郷

葉子

先天的な原因だつて言われたんでしょ？

医学のことはわからないけど、マミがああなつたのは私のせいなの……。

揺れる船。全員よろける。

* 前が見えないよ！ みんないる？

* 聞こえたら返事して！

蓮司 痛！ 狹すぎんだよ。何処が世界最大だよ。

高田 勘違いするな。ボトルが世界一だつただけで。もうこの船に世界一の要素はなに

もないんだよ。

斑鳩 喧嘩売ってるだろ。

高田 今、思えば、ボトル割らずにそのままボトルごと海に浮かべた方が安全だつたか

もな。

斑鳩 それでどうやって舵取るんだよ。

三郷 ヨシオの重みでバランスが！

斑鳩 何で積んだんだよ！

三郷

今になつて忌々しく思えてきたわ。

斑鳩

おまえらのせいだろ！

薦、派手に登場。

蓮司

親父！

薦

船長と呼びなさい。蓮司、船の生活も少しは慣れたか。

蓮司

今頃出て来て。こんなことして楽しいのかよ！ 何もかも滅茶苦茶じゃねえか！

蓮司

？

薦

とつぐに滅茶苦茶だった。もつと早くこうするべきだった。

斑鳩登場。

斑鳩

蓮司君、持ち場に戻れ！

斑鳩退場。

蓮司

こういうことがあるんだよ。素人だけでこんなバカなことしてたら、次こそ本当に取り返しのつかないことが起ころんぞ。ここまで大して海も荒れずにいたからたまたま運良く進んでただけなんだよ。

薫

……こういうことがあって、初めて身につくこともあるんだ。
……本気で言つてんの？

薫

耐性をつけておけ。訪問者は突然来るからな。

蓮司

散々家、ほつたらかして思いつきで父親面してんじゃねえよ。マニ姉のことだつて……。

薫

蓮司。

蓮司

(続けて)ずっと菜穂姉の人好しに甘えて押しつけて。何かに気づいたのは偉いよ。
けど、こんなやり方以外にあつただろうが。

薫

聞け。

蓮司

(続けて)菜穂姉に何かあつたんだろ。俺だって薄々感じてたよ。けど、俺関係ないだろ！ 受験どうしてくれんだよ！

葉子	蓮司	葉子	蓮司	葉子	蓮司	蓮司	薰	蓮司	薰	聞け蓮司。
時間がないの。	何それ。	……。	……。	……。	え？	葉子登場。	間。	煩いよ。	儂、癌だ。	聞け蓮司。

蓮司 母さん、知つてたの？

斑鳩登場。

斑鳩 蓮司君、持ち場に戻れ！

斑鳩退場。

蓮司 持ち場つて靴磨きなんだけど……。

蓮司、葉子去る。

三郷登場。

薰 何かホント嘘みたいだ。体も調子がいいし。自然に帰ることで勝手に治つたりしてな。

三郷 そつだよ。

三郷、サイン。

サトラレか……。

え？ 出てた？

ああ。

薬が効いてるから。

……そつか。

……。

悪かつたな。

え？

巻き込んで。

家族五人だけでこんな船動かせないでしょ。それに船医も必要だろ、うし。

まあな。

……聞いていい？

何？

何で海賊なの？

三郷

薰

薰

薰

……。

薰、ただ笑うだけ。

斑鳩、やつてくる。

斑鳩 船長、大丈夫か？

薰 頭が痒い。

斑鳩 搔け。

薰 みんなに救命用具を。

斑鳩 わかった。

斑鳩、去る。

三郷

ごめんね。ていうか、私がけしかけた所もあつたし。香芝こそ、本当にこんなことして良かつたのかな？

薰

ああ。

三郷

部外者が顔を突っ込むべきじゃないことは解ってたんだけど。私、持ちたくても持てないから。家庭って。

薰

三郷……。

三郷

菜穂ちゃんと話まだしてないんでしょ。

薰

……何を話してもシャツアウトされる気がして。

三郷

親子だね。

薰

香芝にお父さんを許すことができるなら。

薰

……何だそりや。

三郷

葉子さんに禁酒サークル紹介したの、お父さんだよ。

薰

親爺が禁酒?

三郷

知らなかつた? 知ろうとしなかつただけでしょ。お父さんね、香芝が家出てから、亡くなるまでお酒断つてたんだって。

三郷、封筒を渡す。

薫 これは？

三郷 葉子さんがずっと預かったまんまだった手紙。葉子さんから香芝に渡しても読まずに捨てるだらうからって。

……。

三郷 薫 親爺さんね、よく香芝のこと自慢してたよ。

三郷 必ず真実は最後に笑ってくれる……か。
え？

薫 真実ってのは、ここって時には、いつだって自分の想像したのと違うところで笑つてやがる。

三郷、去る。

菜穂子登場。

菜穂子 三郷さんから聞いたんだって？ 中絶のこと。

薫 ……。

菜穂子 別に後悔とかしてないし。私は私の思う通りにしてきただけ。今までこれからも。

何とも思ってないから、気にしないで。ていうか、言われるまで忘れてたくらい
だし。

薰
……。

菜穂子 家さ、完全に出ることにした。帰ったら荷物全部運び出すから……。

薰、懐から菜穂子の携帯電話を出す。

菜穂子 壊したんじゃ……。

薰 沢山登録してあるな。

菜穂子、奪い取る。

薰 最近の携帯はやっこしいな……。

菜穂子 人の携帯勝手に覗いてんじゃねえよ。

薰 その中に名前だけで二人、電話番号もメールの住所も登録されてないのがあった。

どっちも香芝ナントカって。下の名前は聞いたことない。

菜穂子 ……。

薰 一番に出てきたぞ。そんな上に登録してて、どうやって忘れるんだ。名前までつけて。

何でそつやつて自分を犠牲にするんだ。

菜穂子 もういいって！

薫 男が望んだからか？

菜穂子 関係ないだろ。

薰 心配してるんだ。

菜穂子 しなくていい。

薰 後悔してるのか。船だけに。

菜穂子 だつたらどうだつてんだよ！

薰 あんたには関係ない！

菜穂子 何ができることがあれば……。

菜穂子 何もない。

薰 儂は。

菜穂子 何もない。

薰 お前に。

菜穂子 何もない。

薫 何かしてやりたくて……。船に乗せたのだって……。

蓮司、怒鳴り声が聞こえて、何事かと登場。陰で様子を伺っている。

菜穂子 ふざけんなよ。勝手なことすんなよ。そんなのただのエゴじゃねえか……。私のためなんかじやないだろ。自己満だろ。私が望んでると思ったとか、何、決めつけんの？

薫 男に言われたことそのまま儂に言つんじゃないよ。

菜穂子 ……。

薫 おまえがホントにやりたいようにやってるなら、何も言やしねえよ。何もないこ

とないだろうが。

菜穂子 だつたら時間を巻き戻せるかよ！

間。

薫 ……わかった。

菜穂子 何が!? できるわけないだろ!

薫 大学へ行きなさい。

菜穂子 え?

菜穂子は高校出てないから、大検取るどこからだ。

菜穂子 ……。

薫 届けは、出してある。

菜穂子 ?

薫 家に金なくて、蓮司一人大学行かせるのがやつとだと、僕が高卒だから大学に行く意味なんてないと思ってるとか、おまえこそ勝手に決めつけんじゃねえよ!

菜穂子 ……。

薫 別におまえが、この先どんな人間になろうが僕の知ったこっちゃないよ。僕がどんな父親だと思われるかもな。鬱陶しがろうが何だろうが。ただ、今のおまえの心が泣いてるのはさ、そりやほつとけないだろうが。……いいか、頑張んな。適当にやれ。

菜穂子 ……もう家には戻らないから。

菜穂子、去りかける。

薫

それでも構わん。……ウチに戻りたくないなら戻らなくていい。けど、戻る場所がないわけじゃないんだからな。

菜穂子

……。

退場しかける菜穂子の前に高田登場。

高田 あが父親の言葉か。聞いてて呆れるよ。今まで、散々家庭ほつたらかしにして

おいたのだろう。父親面されても今更だよな。

菜穂子

……。

高田 ほんの何日か、家族に目を向けただけで、取り戻せるだなんて、烏滸がましい話だ。侵されたくない領域、ズカズカ土足で踏み躡って、拳銃の果てに君うこんだ厄介

に巻き込んで。そのままにしておけばよかつたんだ。なあ。ホント愚かな親を持つ
つと大変ですね。

菜穂子、高田の頬を平手打ちして去る。

高田

……。

斑鳩登場。高田の正面に立ち、指示を待つ。高田、斑鳩の頬を平手打ち。

斑鳩

どうして！

何の用だ。

高田

社長。どうするんですか。どんどん嵐の中心に近づいてます。

斑鳩

どうする、船長さんよ。

薫、酒を喰らっている。

高田

赤髭。船が沈まないよう、ぐつと押さえておけ。

斑鳩

え？

高田と斑鳩、去る。

桃髭、絵本を手にする。

桃髭

船は、何日も何十日も、太平洋を彷徨さまよい続けました。突然、誰かが叫びました。陸だ！

若者の目には、それまで幾度となく騙された蜃氣樓ではない、本物の島が映つていました。…その島で若者を待つてたのは、大きな感動でした。召使いエンリケの言葉が、この島の人を通じたのです。若者は、とても感動しました。地球が丸いことが証明されたのだ。エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ！

マミ、いつの間にか浮き輪を持って登場している。

薰
……（気配に気づき）マミか。

マミ おそらく。

薰 飲むか。
マミ 飲むか。

薰、マミに缶酎ハイを持たせる。

薰 菜穂子の船出に。

乾杯。缶ビールを呷る薰。

薰 門出か？ ま、いいや。

マミ ……。

薰 菜穂子は、五人で動かす船を一人で漕いでたんだな。……だから疲れたんだ。うん。
マミ 疲れた……。

薰 疲れて、降りてちゃったんだ。ひとり乗りのボートに乗つて。今まで自分の行きたい場所にも行けなかつた分、自由に漕いでんだ。その自由、奪っちゃ駄目だよな。

いつまでも菜穂子を必要としてちやさ。

マミ
……。

薰
マミ
……いつもだ。壊かけた物を修理しようとすると、却って悪化させてしまう。

薰
マミ
悪化させてしまっ……。

……マミのことだって。全然わからないんだ。何考てるのか。どうしたらしいのか。時間作つて海賊になつてみたけど、意味なかつたあ……。笑えるなあ。

薰
マミ
笑わない。

え?

薰
マミ
儀は……。

薰
マミ
儀は……。

解るうとしてくれた。私のことわからうと一杯努力してくれた。どうして笑う?
真実……?

笑わないよ。笑う訳ないだろ。ありがとうって思つて。父さんの娘でよかつたつて思つて。自信持つていいよ。無理することないから。もういいから。
マミ……。

マミ：傍く。物陰で様子を見ている蓮司。

薰：……笑ってくれよ。

マミ：？

薰：笑ってくれよ。マミ、お前が、感情、何処に忘れてきたんだよ。

マミ：……。

薰：まだこんな小さい時に、マゼランの絵本、あれ見てマミ、ニコって笑ってよお、「海賊になりたい」とって。マゼランは海賊じゃないって言つてるのに、海賊になりたいって。なあ。

マミ：……。

薰：……海賊になつたんだぞ？

マミ：……。

薰：……もう覚えてないのか？……海賊になる夢も。……笑い方も。

マミ：……。

蓮司：

錆びついた表情筋。それでも懸命に笑顔を作ろうと試みるマミ。

薰
マミ……？

ぐちゃぐちゃな表情でマミの頭を撫でる薰。

みんなその本が好きだったな三人とも。蓮司はそれ見て絵本出版する人になりたいって言っし。

蓮司
(覚えてた……。)

薰
菜穂子はそれ見て、天狗になりたいって。

蓮司
……。

薰
世界一周でもするか。この船で。

マミ
世界一周……。

薰
マゼランみたいにさあ。

マミ
マゼランは途中で死んだんだよ。
……そつだつたな。

マミ 帰ろ？

薰 え？

マミ ウチに帰ろ？

薰 ……そつか。ああ。帰ろう。

マミが背中を向けたところで薰、気を失って倒れる。ドサッという音にゅっくり振り返るマミ。倒れている薰を見ても何か反応するわけでもなく、ただゆっくりと体を揺らしている。蓮司、飛び出す。

蓮司 父さん？ おい、父さん！（頬を叩く）姉ちゃん、三郷さんを呼んで！

マミ お父さん、もう眠たいんだよ。

蓮司 何言つてんだ、マミ姉！ おい、親父、親父！

マミ 眠たいんだよ。

蓮司 （悲鳴のよくな叫びで）三郷さん！ 三郷さん!! 三郷さん！

三郷 葉子登場。冷静に薰を見つめる。

三郷 香芝ー！

蓮司 三郷さん。父さんが……。

三郷、薫に駆け寄り、脈や瞳孔を確認。

三郷 葉子ちゃん。最初に断わっておいた通り……。
うん。

葉子 大した医療道具も持つて来てないから、気休めくらいの処置しかできないよ。
解つて。

蓮司 解つて？ 何でこうなることを承知で止めなかつた？ こんな陸から離れてしまつたら、病院にも行けないだろ！

葉子 解つてたからよ！

蓮司 ……。

葉子 気づくのが遅かつたの。

蓮司 嘘つけよ。あんなピンピンしてただろ？

三郷 モルヒネで抑えてたから。

問。

何か方法あるんだろう？

葉子
方法？

蓮司 移植しても駄目なの?

葉子
移植って?
何处にあるの?
その肝臓は

三三〇

葉子
何处にあるの?
二に持て来て

蓮司

斑鳩登場

斑鳩 何してるんだ。蓮司君。

蓮司 ちよつと黙つてろよ！……見てわかんねえのかよ。

斑鳩
見えてないのはどつちだ！
下見ろ！
浸水してるだろ？が！

蓮司

斑鳩

ここはひとりついていれば足りる。

斑鳩、蓮司に柄杓を押しつける。

葉子

斑鳩さんと言つ通りよ。母さんが残るから。蓮司行つて。

蓮司

……。

斑鳩

やあ、マミちゃんも！

斑鳩、マミの手を掴む。マミ、喚いて拒絶し、斑鳩の手を噛む。

斑鳩

痛！ 蓮司君、先に行つてるぞ。

三郷

鞄持つて来る。少しだけ痛みを和らげられると思う。

蓮司

起きろよ。あなたの船だろ？が。

斑鳩

……俺の……。

指示出せよ！

斑鳩、三郷退場。

蓮司 何で柄杓なんだよ。

マミ ……。

蓮司 マミ姉、父さんいなくなるつてや。

マミ パパ、寝てるだけだよ。

蓮司 マミもうずっと目を覚まさないんだよ。

マミ そんな訳ないよ。どしてそんなこと言つの？ そんなやなこと言つの？

蓮司 姉ちゃんだって、本当は解ってるんだろう！ 父さんは病気なんだよ！ 治らないんだ。

マミ (初めて感情を出して) パパいなくななんないもん！ マミとおウチに帰るつて言つたもん！

蓮司 マミ姉、……泣いてるの？

マミ 今日までお仕事一杯やつたから、お仕事、やり過ぎてなくなつたから、お休み貰つて一杯遊んでくれるんだもん！ お芝居観に連れてつてくれるんだもん！

蓮司 もうできないんだよ！ 死んでしまうんだよ！ 卑怯だよ！ 自分だけ現実から

逃げて！

マミ 何でそんな怖いこと言うの？ 誰なの、お兄ちゃん！ マミのパパのことお父さ
んなんて呼ばないで！

！

……マミ。

蓮司 マミ あー。あー（壊れる）。

葉子 ふざけんなああああああああ！ ふざけんなよおおおお！

マミに突っかかる蓮司を葉子、体で止める。

葉子 蓮司！ お願いもうやめて！ 早く行つて！

蓮司 でも！

行きなさい！！

揺れる船。葉子、マミに手を差し伸べるが、マミ拒絶。去りかける蓮司の前に高田登場。蓮司に雨
合羽を渡す。

高田 ……怖いですか？

蓮司 ……何が？

高田 父親がいなくなってしまうのが。

蓮司 ……だって、こんな急に。

高田 ……心配なのは、学費のことだつたりして。

蓮司 ……どういう意味だよ！

蓮司、去る。

軋む船。激しい雷鳴。

薰の手を取る葉子。浮き輪を身につけて床に座り込み、体を揺らし、ぶつぶつ呟いているマミ。

葉子 「めんねえ……。薰ちゃん、めんね。

菜穂子、登場。

菜穂子 バカだな。ホントに立派な人だったことに今頃気づいて……。

マミ 立派って何ですか、教えて下さい。立派って何か教えて下さい。立派って何？

桃髭 何が立派ですか。

桃髭 随分安直な言葉で片付けるんですね、菜穂子さん。

菜穂子 何だよ。他人が。

桃髭 今まで適当にあしらつておいて、綺麗にまとめに入ってるじゃないですか。オチ
てないですよ。ってマミちゃんは言いたいのかも。

菜穂子 は？ ひとり現実受け入れられずに、壊れてる奴が？

桃髭 貴方のお父さんは何一つ報われなかつた。我慢して保つてた普通を貴方は当然の
普通として、何も考えないできました。

菜穂子 黙れ海賊。

桃髭 コンサルタント。菜穂子さんには到底できないだろうことを、やってのけたつて、

お父さんなんだから、できて当然だつて思つてきたでしょ。後悔こそすれ、評価
なんかね。

菜穂子 そんなこと、解つてる。

桃髭、絵本を拾ってマミに渡す。

桃髭

解つてないでしょ、貴方は。解つてません。貴方これから一生考え続けなければならぬんですよ。結婚して子供を生んでその子供達に理解されないまま老いて朽ちて頭に輪っか生えて漸く口にしてもいい言葉なんぢやないんですか立派な父親だったって。何もしないうちから口にしてしまうのでは、薄っぺら過ぎますね。

マミ

薄っぺらい。

菜穂子

言われなくとも解つてる！

葉子

父さんは解つてもうえて嬉しいって思つてるわよ。

菜穂子去る。葉子、薰の手を取る。

マミ

パパに触れないで、おばさん。

葉子

……マミ。

嵐、いよいよ苛酷を極める。マミ、絵本を開き、辿々しく、しかし波音にも劣らぬ声で朗読を始める。

斑鳩登場。斑鳩と二人で、葉子とマミに避難を促すが、マミは拒絶して絵本の朗読を続ける。二人は葉子にマミを託し、薫を搬出する。一連は音のない演技で行われる。

マミ

エンリケが、ひとりの人間が、地球を一周したんだ。次はいよいよ自分の番だ。
しかし、喜びも束の間、この島を占領しようと欲張った若者は、逆に原住民に殺
されてしまったのです。若い船長を失った船隊は、五ヶ月かけてたつた一隻になつ
てスペインに帰り着きました。生き残ったのはたつた十八人。中でも新しい船長
には、絶大な栄誉が与えられました。航海日誌や若者の貴重な手記は、何者かによつ
て全部焼き捨てられ、必死の思いで記したマゼランの遺言は、何ひとつ実現され
なかつたのです！

マミ、緩やかに本から目を離す。

マミ

何で気づかなかつたの？ こうなる前に。何でいつも過ぎてしまつまで、気づか
ないの？
見えてなかつたの。本人だつて大したことなさげだつたんだから。

葉子

マミ 悲しい？

葉子 当たり前でしょ。死んじゃうのよ。

マミ 死んだら悲しい？

葉子 悲しいわよ。マミには解らないの？ 誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。

マミ 誰が死んだって悲しいに決まってるじゃない。じゃあ、何でマミの頭お風呂に突っ込んだの？

葉子、思わず自分の口を押さえる。

マミ 何で？ 教えて？ 何で？

葉子 ずっと、心の中で私のこと責めてたんだねえ。二十年も。

マミ マミの肝臓パパにあげる。

葉子 マミちゃん！ できないのよ。

マミ どうして？

葉子 肝臓がないと生きていけないからよ。

マミ

もういいの。マミ生きてても、誰も喜んでない。菜穂ちゃんも出てつた。マミ、パパに生きててほしい。パパいないのに、マミ、生きてたくない。マミの肝臓なら、ピツタリ合うでしょ。

葉子

マミ

違つ！ できるんだよ！ 海賊なんだから。マミもおばさんも海賊なんだから！

葉子

マミ

無理なのよ！ 血が繋がつてないのはお父さんの方なんだから。

……。

葉子

マミ

本当のお父さんじゃないんだから。マミちゃんが提供したって、意味ないの。気づかなかつた？ そうよねえ、これだけお父さん子なんだもんねえ。本当の父親じやないから、最初は巧くやつていけるか不安だつたけど。何てことはなかつた。マミちゃん、いつでもパパ、パパ！ お父さん仕事仕事でウチのこと全然してくれないし、私が全部やつて、それで貴方の子育て重なつて一杯一杯になつても、マミちゃんが背中むずがつて、泣き止まないで、お父さん次の日の仕事に差し障り出たらいけないから、私が朝までさすつて、それでもパパ、パパ！ 貴方産んだの私のよ！ なのに私はつか嫌な役回りで、お父さんのお義母さんはボケるし。

世話してたのに、苛められるし。そりや子連れの再婚だわ、よく思われる……ことはないにしても、前の旦那が遊び人って何処かで耳にして、そのことで、だらしのない嫁って、近所の人がいる前で。でも耐えた！なのに、それをあんたが真似て言つたのよ！ やつてられなかつたのよ！

マミ
……。

葉子
ごめんなさい。マミ。

マミ
繫がつてない……。

葉子
マミだけが味方だつたから……。マミだけが……。

蓮司

浮輪を持つた蓮司登場。放心のマミ、蓮司の脇を抜けて、退場。

蓮司
マミ姉？ ……母さんも、これつけて。

蓮司、変な浮輪を葉子に預ける。

高田、桃髭登場。

葉子 ……宝島、見つかりました。

高田 ……そうですか。ではこれで契約内容、無事果たしたことで宜しいですね。

葉子 はい。

桃髭 こちらに署名を。

桃髭、葉子に書類を渡す。葉子、署名する。

葉子 香芝も、満足していると思います。

蓮司 母さん?

桃髭 費用の方、後日請求書を送らせて頂きますので、月末までに、そちらの指定の銀

行口座にお振込み下さい。

高田 こんな時にすいませんね。赤髭のお知り合いってことで、気持ち勉強させてもらいますんで。…それと、ご主人ね、一応表向きは三郷さんの病院にずっと入院してたことにしてもらつよう頼んでますんで。万一、保険屋の方が渋るようやつたら、私の名前出してもらつたらいいんで。

葉子

本当にありがとうございました。蓮司もありがとうね、我儘に付き合つてもらつて。
でもこれからは、好きなことできるから。大学行くお金は、父さんの保険が降り
るし。

蓮司

何言つてるんだよ！

葉子、高田に会釈し、退場。

蓮司

母さん！

高田

すんませんね。仕事なもんで。

蓮司

ふざけるな。

高田

……ふざけてないですって。仕事ですよ。需要があるからやつてるんです。いい
ですか。蓮司君にはしょーもないことかも知れませんけどね。そのしょーもない
ことを、こうして何もかも投げ打つてまで欲しいと思ってる人もいるんですよ。私
らはそういう人達が好きでたまらないんですよ。ま、ダブルメリットってことで。
そういうものなんです。特にこんなご時世ですからね。あちこちで仕事貰つてい
ます。何かあつたらまたご贔屓頼みます。忘れないで下さいよ、私たちのこと。蓮

司君が親爺さん位の年になつたら、またね、そういう話があるかも知れないし。

今は解らないも知れませんけど。

高田、桃髭、歩きはじめる。

高田

そ、うそ、私らのこと、他の人に言わないで下さいね。一見いちげんさんは遠慮とんりょさせてもらつてますんで。

高田、桃髭去る。蓮司、その場に跪く。

蓮司、額から血が滴る。意識朦朧とし、その耳は次第に嵐の音を拾わなくなつていく。

薰、登場。マゼランの格好で、片足を引き摺つていて。いつの間にか船は太平洋の真ん中、雲ひとつない空、波は穏やかになり、心身ともに乾ききつて。

蓮司
父さん?

薰
君も無事か。……随分人数も減つたもんだ。あの海峡を越えて何十日経つたか。何処まで続いてるんだ、この海は。?

蓮司

薫 君は結婚してゐるのか？

蓮司 ？

私は國に家内と子供を待たせてるんだがな。もう会えるかどうか、解らん。

薫 蓮司 親爺？

なあ、ひとつ頼まれてくれないかな。もし、私がこの旅の途中命尽きたとして、君が無事に祖國に戻ることができたら、その時は、これを家内に渡してほしいんだ。

薫、蓮司に封筒を渡す。

蓮司 言つてることが解かないよ！ しつかりしろよ。

薫 長いことおか陸を見てないといつゝ弱氣になつてしまふ。

蓮司 私のことが解かないの？

それには、この航海で手に入れた財宝を家族に与えるように指示してある。

斑鳩登場。マゼランの部下の格好。衰弱。

斑鳩

船長、来てくれ。……またひとり死んだ。

薫

祈りは済ませたのか？

斑鳩

まだだ。他の奴が不安がつてゐる。近く反乱が起きるやも知れん。

薫、力を振り絞り、立ち上がる。

蓮司

父さん？

薫

それ、頼んだよ。

斑鳩、薫去る。マミ、繪本を持って木箱の上に立つ。蓮司、手紙を読みながら震え、意識が薄れ、倒れる。

マミ でも、のちのち海峡に、若者の名前がつけられたことだけが、たつたひとつの報

いでした！

全員登場。マミ以外、全員雨合羽。

斑鳩

海がなくなつてゐるぞ！

* 涡だ！ 飲み込まれるぞ！

高田 全員所定の位置につけ！

斑鳩 回避！ 回避！

三郷 蓮司君。短き生涯、貴方は何で綴りますか？

* 舵を切れ！ 取舵だ！

斑鳩 取舵一杯！

* 取舵一杯！

三郷 メーデー！ メーデー！ 聞こえますか！ 救援をお願いします！ ……はい！

聞こえます。

マミ 船長さんが言いました！ 笑つて下さい！

菜穂子 船長さんが言いました！ 頑張らないで下さい！

蓮司 船長さんが言いました！ そのまでいて下さい！

葉子 船長さんが言いました！ ただ、生き続けて下さいと！

全員 船長さんが言いました！ ただ、生き続けて下さいと！

全員、携帯電話を取り出し、耳に当てる。

全員 メーデーメーデー聞こえますか。

ランダムに繰返し、携帯を持つ手をひとり、またひとり降ろしていく。

菜穂子 ……メーデー、メーデー、聞こえますか。私はここにいます。

蓮司 ……何で、綴る？

マミ ……人で。

全員 オーバー……。

溶暗。 幕。

こんなに早く死ぬことになつてごめんなさい！ 生まれ変われるのかわからな
いけど、その時もみんなの家族になりたいです。

葉子は一度だけ虐待。

薫が高田を雇った案。

高田に何がしたいのか尋ねる菜穂子。

高田は家族を薫に助けられたことがある?

仕事で。父親の仕事を助けた?

高田は恩返し。じゃないと仕事ではやらないと思う。

三郷から連絡をもらつた。

三郷と高田には接点があつた。ふとした時に会話の中で薫の話が出て、どちらも薫を知つて いるとわかる。ただし、薫は高田を知らない。

高田、三郷から家庭がうまくいっていないことを知る。そんなのは放つておけない高田。

薫が余命短いことは、三郷の口からは話せないので直接知る?

薫はノリノリで海賊をやるわけじゃない。けどマゼランを演じたことはある。

高田は仕事? 慣れていない感じで。

真実は笑わない 2014.2.1

真実は笑わない 2014.2.1

真実は笑わない 2014.2.1

真実は笑わない 2014.2.1

真実は笑わない 2014.2.1

真実は笑わない 2014.2.1